

実績報告書

届出者	住所	東京都港区高輪3-22-12	氏名	独立行政法人地域医療機能推進機構 理事長 尾身 茂
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		地域医療機能推進機構は全国57病院（大阪府3病院）のグループとして医療、リハビリテーションその他地域において必要とされる医療及び介護を提供する機能の確保を図り、もって公衆衛生の向上及び増進並びに住民の福祉の増進に寄与することを目的としています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	13,976 t-CO ₂	12,799 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	15,465 t-CO ₂	13,925 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	10 %	2.6 %	-5 %
		削減率 (原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率 (平準化補正ベース)		- %	2.7 %	-4 %	10 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)
-------------------------	-------------------------------------

(4)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<ul style="list-style-type: none"> ・大阪病院 <ol style="list-style-type: none"> 1. 省エネシステム、高性能機器設備及びコージェネシステム導入による省エネ化。 2. 冷暖房の適正な温度設定による空調設備の省エネ運用管理。 3. 間引き照明の実施。 4. エレベーター (一部) の運転時間短縮。 ・大阪みなと中央病院 <ol style="list-style-type: none"> 28年度は、27年度より電気、ガスともに使用量が若干増加。空調管理を徹底する。 ・星ヶ丘医療センター <ol style="list-style-type: none"> 年間を通して外気温 (夏季に高く、冬季に低かった) の影響を受け、冷暖房用のエネルギーの消費が増加したため、前年度より削減できず。全体として、事業者の変更により8.5%削減した。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

本部を中心に各地区ごとに設置している地区事務所(近畿地区においては近畿地区事務所)及び各病院が協力し、温室効果ガス低減への取組みを推進していきます。
 具体的には、省エネ委員会を推進し不要照明の消灯などに取り組み、職員全体の意識向上に努めていきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1122) 空気調和設備の運用改善	冷暖房を適正な設定温度に保ち、温室効果ガスの排出抑制に効果のある省エネに積極的に取り組む。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪病院	コード(1216) 省エネシステム・高性能機器設備の導入	高効率型の空冷ヒートポンプチラー、ガスヒートポンプ空調機、電気式ヒートポンプ空調機、水熱源パッケージ空調機を導入し、省エネ効果を高めます。 (平成27年2月新建物竣工にて運用中)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪病院	コード(1213) コジェネシステムの導入	発電時に発生する排熱を、給湯補給水の予熱に再利用して省エネルギー化を図ります。 (平成27年2月新建物竣工にて運用中)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪病院	コード(1218) 照明制御等を利用した高効率照明器具	廊下、階段などに人感センサーを利用した照明制御を行い、省エネルギー化を図ります。 (平成27年2月新建物竣工にて運用中)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪病院	コード(1124) 太陽光発電設備導入	再生可能エネルギー利用して、屋上に太陽光発電設備を設置します。 (平成27年2月新建物竣工にて運用中)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪病院	コード(1125) 高性能遮熱断熱サッシの導入	8階～13階病棟に高性能遮熱サッシを導入して建築外皮負荷を低減します。 (平成27年2月新建物竣工にて運用中)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪みなと中央病院	コード(1218) 照明設備の導入	省エネ効果の高い照明設備(Hf 蛍光灯)に更新する	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪みなと中央病院	コード(5112) 照明の間引き	使用していないエリアの照明消灯	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪みなと中央病院	コード(5111) ピークカット	使用していないエリアの空調停止	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	星ヶ丘医療センター	コード(1125) 蒸気系統配管断熱強化の為の保温加工	蒸気系統配管断熱強化の為の保温加工により、熱損失の防止を図る	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

11	レ	GHG排出	星ヶ丘医療センター	コード(1218) 未交換箇所の省エネ管球の交換	照明設備の改善(36W節電型ランプの交換を随時行う。設備の改修時にはHf型蛍光灯、LED照明器具の一部採用を検討する。)現在検討中	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	星ヶ丘医療センター	コード(1216) エアコン室外機の熱交換器の洗浄	エアコン室外機の熱交換器フィンの洗浄を実施し、熱効率の向上を図る	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	星ヶ丘医療センター	コード(1216) クーリングタワーの清掃	充填財の清掃を行い、冷却水の温度低下による冷凍機の効率アップを図る。 定期的に冷却塔清掃	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
14	レ	GHG排出	星ヶ丘医療センター	コード(1218) トイレ照明のセンサー化	トイレ照明の人感センサースイッチを採用し利用時のみの点灯により、電力の削減を図る。実施中	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	星ヶ丘医療センター、近畿地区事務所	コード(1125) ブラインドの有効利用	ブラインドの効果的な使用による日射遮へいによる空調負荷を軽減する。 継続実施中	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	星ヶ丘医療センター、近畿地区事務所	コード(1218) 不在時、昼休み、外光利用の消灯。	不在時、昼休み、外光利用の消灯。外光を利用して消灯による電力の削減を図る 継続実施中	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業者	コード(2122) 自転車や公共交通機関の積極的な利用	公用車の効率的な利用を図るとともに、移動の際は自転車や公共交通機関をできるだけ利用する。	0年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業者	コード(2123) アイドリングストップや、急発進を控える	運転の際には、急発進やスピードの超過に気を付ける。また、停止中はエンジンを切り、アイドリングストップを実施する。余計な荷物を積載しない。	0年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市淀川区宮原3-3-31 上村ニッセイビル13F	氏名	中外製薬株式会社 大阪支店 大阪統括支店長 佐藤綱則
特定事業者の主たる業種		32 その他の製造業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		医薬品卸売一般販売業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 28 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	307 t-CO ₂	277 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	314 t-CO ₂	279 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	2.9 %	1 %	1 %	9.8 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	0 %	11.2 %	
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>エコカーの導入、アイドリングストップに向けた啓発活動、クールビズ・ウォームビズの早期導入、節電の実施等により、減少傾向にあると思われる。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

入居ビル管理と相談し、フロア蛍光灯の間引きの継続。共有部分の節電に協力する。温度設定に関して、通常より夏は高めに、冬は低めに設定し空調調整実施。業務使用PC等、電子機器の不必要な電力使用を控える。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪支店	コード (1225) 環境委員会との連携	環境委員会を活用し、従業員へCO2削減 (電力使用削減に向けた) 対応への啓蒙 活動を行う。	26 年度
		人工排熱				28 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪支店	コード (1113) 環境委員会との連携	電力の不要な箇所の電源の入り、切りの 操作を行う。また、社員の出入りの少ない 個所の証明設備の間引きなど工夫し、 証明消灯箇所を作る。	26 年度
		人工排熱				28 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪支店	コード (1113) 冷暖房温度調整	季節に応じた冷暖房調整を行う。電力会 社の電力需要に応じた対応をビル管理会 社の指示に速やかに対応し、節電を実施 する。	26 年度
		人工排熱				28 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪支店	コード (2114) 車両点検実施	3か月毎に営業車両の点検を実施し、燃 費に関わる部分の適切な管理、維持を行 う。	26 年度
		人工排熱				28 年度
2	レ	GHG排出	大阪支店	コード (2121) E C O 車両の 導入	リースアップに伴う、車両の入れ替えは ハイブリッド車 (低環境負荷車両) に切 り替える	26 年度
		人工排熱				28 年度
3	レ	GHG排出	大阪支店	コード (2123) エコドライブ 10の普及、実 践推進	環境委員会と連携し、エコドライブの推 進を行い、事故削減、燃料節約、温室効 果ガス排出の削減を目指す	26 年度
		人工排熱				28 年度

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都港区芝1-7-17	氏名	中間貯蔵・環境安全事業株式会社 代表取締役 谷津 龍太郎
特定事業者の主たる業種		88廃棄物処理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		近畿二府四県に保管されているPCB廃棄物（トランス、コンデンサ、PCB油）を処理しています。処理施設は大阪市此花区北港白津にあり、東棟と西棟からなっています。西棟ではトランスやコンデンサ等の内部オイルに含有されるPCBを「真空加熱分離法」及び「溶媒洗浄法」により除去する前処理をし、東棟で分離したPCBを「触媒水素化脱塩素化分解法」で無害化しています。また、大阪市港区弁天に事務所があり、営業活動をしています。平成26年12月に法人及び事業所の名称を変更しました。（旧名称：日本環境安全事業株式会社大阪事業所		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	26	年	4	月	1
			日	～	平成
			29	年	3
			月	31	日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	17,984 t-CO ₂	15,979 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	19,466 t-CO ₂	17,357 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	3 %	6.6 %	9.8 %
		削減率 (原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率 (平準化補正ベース)		－ %	7.7 %	10.8 %	10.9 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>弊社が処理するPCB廃棄物の処理が相当進んできたことに伴い、年間処理台数が減少しており、これに応じて設備の運転バッチ数も減らしていくことで、温室効果ガスを削減させた。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

平成22年1月15日に大阪事業所としてISO14001認証を取得した。平成24年2月10日には日本環境安全事業（株）として全社統合のISO14001認証を取得した。「環境推進委員会」を四半期毎に開催し、年度末には内部監査、マネジメントレビューを開催して環境負荷低減に向けた活動を推進している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪PCB処理 事業所（全 体）	コード (1111) 環境推進委員 会の設置	環境推進委員会を設置し、環境負荷の低減に向けた活動（不要照明の消灯、事務所の冷暖房の節減、照明器具のLEDへの切替等）を継続的に実施する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪PCB処理 事業所（全 体）	コード (1121) 空気比率の適 切な管理	燃焼設備の保守点検を定期的を実施し、空気比率を適切に管理する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪PCB処理 事業所（全 体）	コード (4210) 緑地帯・屋上 庭園の保有	事業所内に緑地帯、屋上庭園を858㎡保有しており、適切に維持管理する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪PCB処理 事業所（全 体）	コード (1113) PCB廃棄物処 理の安全かつ 安定操業	効率的な稼働状況を維持するため、PCB廃棄物の処理量確保と、安全かつ安定した操業を図る。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪PCB処理 事業所（全 体）	コード (1218) 休憩時間中の 消灯	昼休みの休憩時間は事務所、ロビーの照明を消灯中。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪PCB処理 事業所（西 棟）	コード (1113) 冷却塔ファン 設定温度変更	冷却水の送水温度を30℃から37℃に変更して、冷却塔のファン使用電力量を削減する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪PCB処理 事業所（東 棟）	コード (1113) 処理量に応じ た水素関連設 備の運転	処理量に応じて水素関連設備を停止し使用電力量を削減する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪PCB処理 事業所（西 棟）	コード (1216) ガスヒーポン 運転時間スケ ジュール化	ガスヒーポンの運転時間をスケジュール化し都市ガス使用量を削減する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪PCB処理 事業所（全 体）	コード (1113) N2コンプレッ サー設定吐出 圧力変更	N2コンプレッサー設定吐出圧力を変更して、使用電力量を削減する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG 排出	大阪PCB処理 事業所全体	コード (2123) 停止時のアイ ドリングス トップなど	停車時のアイドリングストップ、法定速 度の遵守、急ブレーキ・急発進を禁止等 のエコドライブを推進する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策
